

東北地方交通審議会
第188回船員部会

議事要録

令和6年6月28日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会 第188回船員部会

日 時 令和6年6月28日(金) 13:30～

場 所 Web開催

出席者 公益委員 : 高橋(真)部会長、増田部会長代理、
鈴木委員

労働者委員 : 甲斐委員、高橋(雅)委員、奈良委員

使用者委員 : 千葉委員、平岡委員、村上委員

運輸局 : 真田海事振興部長、鈴木海事振興部次長、
沼澤船員労働環境・海技資格課長、
柳松船員労政課長、田口専門官、高橋労政係長

1. 開 会

2. 議 題

(1) 管内の雇用等の状況について

(2) 情報提供について

(3) その他

3. 閉 会

(資料)

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(4月分)

資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)

資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)

資料4 新規求人・求職数(全国)

資料5 有効求人・求職数(全国)

資料6 有効求人倍率(東北管内)

資料7 有効求人倍率(全国)

資料8 船員等海事産業人材の確保・育成

参考資料 船員の特定最低賃金の改正に関する検討資料

◎開 会

【鈴木海事振興部次長】

〔第188回船員部会の成立状況について報告〕

〔配布資料確認〕

◎議 事

【高橋部会長】

それでは、早速議事に入りたいと思います。

手元にあります議事次第の議題（1）「管内の雇用等の状況について」、事務局から報告をお願いします。

〔柳松船員労政課長から資料1～7に基づき説明〕

【高橋部会長】

ありがとうございました。ただいまの報告内容について、何かご意見、ご質問等ございますか。

ないようですので、ご了承いただいたものといたします。

続きまして、議題（2）「情報提供」に入ります。

委員の皆様から情報提供をお願いします。

初めに、労働者委員からお願いします。高橋委員、お願いできますか。

【高橋（雅）労働者委員】

2点ほど報告いたします。

6月10日、第8回となります東北地区船員教育機関、海運・水産会社等関係者との懇談会を開催しております。当日は、教育機関として水産高校6校から7名の先生方、業界団体は30名、東北運輸局から柳松労政課長に出席していただいております。ほかに水産庁から1名の総勢48名で開催し、2時間半くらいの懇談を行っております。

もう1点が、今年の3月に竣工しました捕鯨母船「関鯨丸」ですが、5月25日に東京を出港

しまして、10日に仙台港に入港し、ニタリクジラ15頭分、110トンほどを仙台港で水揚げしております。また、本年度の鯨の捕獲のTACがミンククジラ142頭、ニタリクジラ187頭、イワシクジラが25頭ですが、新たにナガスクジラ59頭が追加され、7月中旬頃から商業捕鯨が認められる予定です。

【高橋部会長】

ありがとうございました。甲斐委員、ありますか。

【甲斐労働者委員】

前々回に、労働協約改定交渉ということで報告しましたが、今回、年間臨時手当交渉について報告したいと思います。年間臨時手当のある担当会社は3社あり、漁業無線の会社1社、旅客船の会社1社、港湾船・タグボートの会社1社となっております。まず漁業無線局は1割増で妥結、旅客船会社についても1割増で妥結をいたしております。港湾会社については2.5割増ということで妥結をいたしました。全社増加で妥結をいたしております。

【高橋部会長】

ありがとうございました。奈良委員、お願いします。

【奈良労働者委員】

気仙沼地区から1点報告いたします。

内容につきましては、気仙沼の近海マグロ漁船10隻の水揚げ状況についての報告になります。令和5年度の1隻当たり平均は、数量で506トン、平均で2億3,200万ということで、対前年比1,000万程度のプラスになっております。数量については、ほぼ対前年比で同じですが、金額が上がった要因として、ヨシキリザメの魚価が平均単価で57円上昇したことによるものです。

【高橋部会長】

ありがとうございました。

労働者委員からの情報提供に関して、何かご意見、ご質問ございますか。

ないようですので、使用者委員に移りたいと思います。千葉委員、お願いできますか。

【千葉使用者委員】

旅客船分野の動向を知る指標の一つとして、今年度の大型連休であるゴールデンウィークの輸送実績を報告させていただきます。協会の調べとして、全国から21社を抽出し、東北管内では丸文松島汽船さんと山形の最上峡芭蕉ライン観光さんが含まれており、4月29日から5月5日までの輸送実績になります。コロナ前の平成30年との比較では、平成30年の輸送人員が46万2,429名、令和6年は37万8,912名で、平成30年と比較しますと81.9%ということで、まだコロナ前には戻っていない実績となっております。

続きまして、知床遊覧船事故を受けた小型旅客船の安全対策の一つとして、前回は救命いかだの報告をさせていただきましたが、今回は隔壁の水密化についての安全対策について報告させていただきます。実施目安としては令和7年度で、まず、限定沿海以遠を航行区域とする小型旅客船の安全性をさらに高める観点から、以下の対策を義務づけるようになり、「①水密全通甲板の設置」及び「②いずれの1区画に浸水しても沈没しないような水密隔壁を設置」する内容です。これは、大体の一般の船舶では行っているのですが、まだ不十分だということで、この対策が設置されたといえます。協会内で危惧しているのは、事業者十分に伝わっていないというところで、周知が必要ではないかと思われることから、説明会の要望を今後していきたいと考えています。

3点目として、円安と中東情勢の関係から、ある報道では航空機、旅客船の燃料不足が報道されていますが、協会調べた結果では、大型フェリー会社に聞いたところ、A重油、C重油とも燃料不足には陥っていないということでした。

【高橋部会長】

ありがとうございました。平岡委員、お願いします。

【平岡使用者委員】

超党派の国会議員で構成する海事振興連盟が主催のタウンミーティングが、6月16日、酒田市で開催されました。内航海運、旅客船、造船業、港湾運送業など10団体が国への要望を発言しました。内航海運業を代表しまして、私が次のことを要望いたしました。船員不足の対策として、海技教育機構への国の支援を手厚くすること。取引環境の改善を行えるよう荷主対話を継続すること。中小企業投資促進税制を令和7年度以降も延長すること。燃料油価格激変緩和

補助金を継続すること。カーボンニュートラル対策の技術開発や新たな燃料の供給体制を整備すること。カボタージュ制度を堅持すること。以上のことをお願いいたしました。東北運輸局をはじめ国土交通省の皆様には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

【高橋部会長】

ありがとうございました。村上委員、お願いします。

【村上使用者委員】

今週月曜日の6月24日、所属している宮城県北部船主協会の総会がありました。その中の資料で、新規就業者受入れの報告がありましたので、お知らせします。

令和5年の遠洋マグロ漁船の所属船は37隻あります。その37隻の遠洋マグロ船に、新規の就業者として7名の受入れがありました。3月末現在で乗船中は7名中の5名となっております。ちなみに、この船主協会の就業者受入れの活動が始まったのは、震災の年である平成23年度からですが、遠洋マグロ船の受入れはこの13年間で123名になりました。そのうち現在乗船中の人数は42名で、乗船率としては34%となっております。

次に、近海のマグロ漁船ですが、所属の隻数は10隻となっております。令和5年の受入れ人数は2名、3月末乗船中2名で乗船継続中です。この近海マグロ船も13年間での受入れ総数が35名、そのうち現在乗船中は6名となっておりますので、乗船率としては17%となっております。

次に、遠洋のカツオ漁船ですが、所属が2隻となっております。この遠洋カツオ漁船については、令和5年の受入れはありませんでした。平成23年度から13年間の受入れ者数は29名、現在乗船中が7名となっておりますので、乗船率としては24%となります。

次に、遠洋のカニ籠の漁船は、所属は1隻だけです。昨年の受入れはゼロです。この13年間での受入れは2名、そのうちの1名が乗船中です。

大型のサンマ漁船については、現在3隻所属しておりますが、昨年の受入れはありませんでした。平成23年度から13年間の受入れは2名でしたが、現在乗船している方はおりません。2名とも下船しております。

次に、漁業取締船ですが、4隻の漁業取締船が船主協会に加入しております。令和5年の取締船への受入れはありませんでした。23年からの13年間での受入れ者数は32名、そのうち現在乗船中が15人で、乗船率は47%となっております。

継続して乗っていただいで乗船率を上げていくというのが課題となっております。遠洋船で

はネットの環境、W i - F i がつながる環境の設備や、若い方が乗船しやすいような環境を相談しながら、どのようにしたら定着率がよくなるかということを考えて行っていますが、定着率が低いという課題に対し、地道に解決していかなければと考えております。

【高橋部会長】

ありがとうございました。

ただいま使用者委員から報告がありましたが、何かご意見、ご質問ございますか。

ないようですので、議題（3）「その他」に入ります。

まず、資料8の船員等海事産業人材の確保・育成について、事務局から報告をお願いします。

〔柳松船員労政課長から資料8に基づき報告〕

【高橋部会長】

ありがとうございました。

ただいまの内容に関して、何かご意見、ご質問ございますか。

ないようですので、次に、参考資料の「船員の特定最低賃金の改正に関する検討資料」について、事務局から報告をお願いします。

〔柳松船員労政課長から参考資料に基づき説明〕

【高橋部会長】

ありがとうございました。

ただいまの説明内容について何かご意見、ご質問ございますか。

平岡委員、お願いします。

【平岡使用者委員】

標準生計費の中で2人の世帯が69.9%ということで、3割も下がっています。3人の世帯も87%で、物価が上がっているのに3割も下がるというのは、どういうことなのでしょうか。

【高橋部会長】

事務局、何か分かりますか。

おそらくですが、この標準生計費は、毎年最賃の時期に出るのですが、2人世帯と3人世帯でマイナスになっているのは、物価が上がっているので、支出を減らそうという傾向が起きているのではないかと考えられます。

【平岡使用者委員】

3割も減らすというのはなかなか大変かと思われませんが。

【高橋部会長】

多分、実際に消費者物価が上がって、所得がそれに見合っていないので支出を抑えているという傾向は、去年も統計上出ていると言われているのですが、ただ、実際にこの3割をどうやって減らしているかというのは難しいところかと思えます。例えば、日中はほとんど仕事で自宅におらず、また帰宅する時間を遅らせて自宅にいる時間を減らし、電気代などの光熱費を抑えていることが要因として考えられるところもあります。実際にそれが正しいかどうかは別にしても、所得が伸びない中で物価が上がり過ぎているから、家計支出を抑えているという傾向は去年ぐらいからずっと言われているところですが、要因としてそれがそのとおり当たっているかどうか分かりません。

皆さんから、何かこれに関してご意見がありましたらお願いします。

それでは、平岡委員から話があった、5ページの標準生計費の2人世帯、3人世帯の支出減少に関して、私が言ったのはマスコミでよく言われていることですが、事務局で要因や理由を調べていただき、もし分かれば次回の部会でお話をしていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

【柳松船員労政課長】

承知いたしました。調べてみたいと思います。

【高橋部会長】

よろしく申し上げます。

推測ですが、今回の資料は令和5年4月と令和4年4月を比較した数値になっていますが、

令和4年4月と令和3年4月を比べると、もしかしたら1人世帯、4人世帯、5人世帯でも、支出が減っている可能性もあります。物価は去年も上がっているし今年も上がっているので、支出を抑える傾向が出ているかもしれません。ただ、今回の資料は、たまたま1人世帯と4人世帯と5人世帯はプラスになっていて、前の年と比べれば実は支出額が減っているということが、傾向としてはあり得るかなと思いますので、令和5年だけじゃなくて、令和4年と3年の4月のデータとして人事院の資料があれば、比較することで傾向が見えてくるかもしれません。去年も話が出て比較した記憶があるので、よろしくお願いします。

続いて、5月の船員部会でお願ひしました、「2023年度水産高校等新規学卒者船員就職状況調査」において、気仙沼向洋高校の当初の船員希望者数を上回る就職者となった要因について、高校へのヒアリング結果の報告をお願いします。

【柳松船員労政課長】

前回、高橋部会長からご質問がございました、気仙沼向洋高校における「水産高校等新規学卒者船員就職状況調査」における、就職率125%の要因などのご質問についてご報告申し上げます。

ご質問の1つ目の、当初6名の男子が商船希望であったが、2名増加して8名の男子が就職した理由につきましては、年度当初の調査時点において、船舶への就職を選択肢には入れていたようですが、いろいろな方面の就職、進路の選択も検討していたとのことで、気仙沼向洋高校では、独自に実施している進路調査を、本調査の基にしているようですが、それにこの生徒さんは回答していなかったというのが1つの理由でございます。2つ目ですが、7月になって企業側の求人票が解禁されたことにより、学校へ届いた求人票の内容から、いろいろな業種や給料面などを多角的に確認できたこと、また、会社見学などを通して具体的に就職希望を固めることができたため、商船への就職につながったということがあったようです。会社見学には、7月に実施している「海技者セミナー」も含まれており、この生徒さんはセミナーにも参加していただいているようで、各企業の担当者から直接話が聞けたとことも、船の仕事を決めた一つの大きな要素になっていると言えるのではないかと思います。

ご質問の2つ目ですが、当初1名の女子が商船希望であったが、1名増加して2名の女子が就職されたことにつきましては、当初希望の1名は、フェリーのアテンダント業務に就職した卒業生から話を聞いていたようで、年度当初から興味を示しており、会社見学などの過程を経て就職につながったということです。もう1名につきましては、年度当初は進学か就職かで迷

われていたそうですが、当初希望の1名と一緒に会社見学に行かれたようで、そのことでフェリーのアテンダントへの関心が強くなり、就職へ結びついたということが、1名増加の理由と
のことです。

ご質問の3つ目ですが、当初1名の男子が漁船希望であったが、漁船の就職者はゼロだった
ことについては、当初は漁船への就職を第一希望にしていたようですが、会社見学などを行っ
たことにより、自分自身の適性をかなり熟考されたようで、結果、調理の仕事がしてみたいと
なったとのことです。よって、第二希望だった専門学校への進学に変更したため、ゼロになっ
ています。

学校から伺った話としては、例年、3年生に進級する前の休み期間中、保護者も含めた進路
面談を実施しているとのことでした。傾向としては、年度当初から具体的な進路希望を掲げて
いる生徒さんは少なく、本格的に進路を固める段階は、やはり求人活動解禁となる7月以降に
届く求人票による検討や、会社見学などによって進路を決定し、試験へ臨まれる生徒さんの割
合が多くなっているとのことです。

以上、ご報告いたします。

【高橋部会長】

ありがとうございました。

今、課長からお話いただきましたが、ちょっとまとめると、ひとつはやっぱり海技者セミ
ナーの意義が結構大きい感じがします。実際に海の仕事にはどういう仕事があってという説明
が、高校生に直接伝わるという意味では、海技者セミナーというのは大きいということです。
それから、会社見学によって1人はフェリーに決めているし、逆に1人はそれで諦めていると
いうことはあるのですが、やっぱり実際に船員の仕事を詳しく説明してもらおうとか、あるいは
漁船にしる商船にしる、会社の方が高校生に具体的な例をお話ししてもらおうと、特に迷って
いる子供たちは船員に向かうのではないかということが、今の説明からは分かりましたので、海
技者セミナーの在り方とか、各使用者さんの高校生に対する船員に関する職業説明の仕方など
を工夫していただければ、多少なりとも船員を希望する子供たちが増えてくるのかなという印象
を持ちました。せっかくの情報をいただきましたので、今後このような点も活用していただ
ければと思います。よろしくお願いします。

ただいまの報告内容について、何かご意見、ご質問等はございますか。

ないようですので、本日の議事は終了となります。

次回の船員部会は、7月26日金曜日の13時30分からウェブでの開催となります。

最後に、事務局から連絡をお願いします。

【鈴木海事振興部次長】

事務局からご連絡いたします。

1点目は、議事要録についてのご連絡になります。本日の船員部会資料と一緒に郵送しております、5月開催の第187回議事要録案につきまして内容を確認いただき、修正等がございましたら、短期間で恐縮ですが7月12日金曜日までにご連絡いただきますようお願いいたします。

また、ご確認をお願いしておりました第186回議事要録案につきましては、期限までに修正等のご連絡がございませんでしたので、郵送しました議事要録で確定版とさせていただきたいと思っております。

それから、船員部会委員と最賃部会委員につきまして、そろそろ就任に関する作業に入っていきたいと思っております。近いうちに、委員の皆様へ就任の意向確認などを行っていきたいと思っておりますので、その際はぜひご協力のほどお願いいたします。

それでは、以上をもちまして本日の船員部会を終了いたします。皆様、大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

◎閉 会